平成３１年度様式

事 業 報 告 書

１ 支 援 団 体 名	特定非営利法人嘉瀬川交流軸
２ 事 業 名 称	生命の水の歴史と水が織りなす文化を女性が伝承する
３ 実 施 日 時	令和元年５月１日～令和２年３月 31 日
４ 実 施 場 所	嘉瀬川防災施設さが水ものがたり館
５ 事業目的、内容及びその効果	（事業実施状況･内容） 全４回に渡り委員会を開催。１～３回までの開催場所は、嘉瀬川防災施設さが水ものがたり館にて開催。テーマをそれぞれ設定した。第１回は「水と文化～水と生活の関わり」第２回は「ダムと治水」第３回は「日本の美しさを感じる水を表現した“ことばやモノ“とした。いずれも委員の方々が日本で生活をする中、幼少の頃から触れてきた水を感じただけではなく新たに文字におこし、人に伝え受け継いでいく事の大切さを深く考えたとのべた。空気と水は人間が生きていく上で欠かせないものだがそれだけに「具現化」し、こんなに有難く考えた事はなかったし、記憶を辿り振り返ることもなかった。今回の委員会は一生の財産となった。
	（事業実施効果） 生きていく上で欠かせない「水」それは即ち「日本文化」と深く関わる。 委員の方々は全員「水」は尊さと怖さを併せ持つ存在だと答えた。 ＊２月１６日開催予定のシンポジウムは「コロナ肺炎」の影響を考慮、危惧し急遽ディスカッションのみに変更。会場をさが水ものがたり館から、富士町嘉瀬川ダム湖畔の「菖蒲御膳」に変更した。ダム及び副ダムの有効活用利用を促進している施設において会議を開く。水と文化委員会では、現在のダムが如何に治水や利水に活用され河川環境の保護の視点からも十分に地域貢献を果たしていると認識を新たにした。
６ 参 加 内 訳	総人数　４０　名
	（１）主催者参加　４　名
	（２）日本人参加（（１）を除く）　３８　名
	（３）外国人参加（（１）を除く）　２　名
７ 今 後 の 方 針	＊成果物の冊子は、当館を始め子育てを応援する行政機関である保健福祉会館や嘉瀬川ダム、道の駅、テレビ局、市役所等に設置配布。

コーディネーター津上佳奈美氏
西日本短期大学部幼児保育学科教授

第１回委員会参加委員と会議の様子
アドバイザー若林高子氏　環境省環境カウンセラー

第２回委員会参加委員と会議の様子

第３回委員会参加委員と会議の様子

嘉瀬川ダム湖畔施設での会議　取材風景

嘉瀬川ダム湖畔施設での会議